



Think tank Report

シンクタンク レポート

三菱総合研究所



プラチナ社会研究センター
主任研究員 松田 智生

きるのだ。

から介護時まで同一敷地で継続的にケアを受けられ、移転の心配なく安心して暮らすことができる。

(図)

また月々の家賃は介護になっても同じであり、経済的・精神的な負担感が軽減される。

平均年齢84歳、入居率98%の
大学連携型CCRC

東海岸の名門校ダートマス大学

参加など様々なプログラムが用意されている。

注目すべき点は、「大学街」というコンセプトだ。地元市は人口約1万人で、その半数がダートマス大学の関係者で、アカデミックさと活気を感じられる。また大

○84歳・女性

ここでの楽しみは夕食を誰かと毎日食することだわ。健康支援が充実していることも満足しているわ。生涯学習ではパソコンを勉強しているの。

学の生涯学習は、歴史、文学、音楽、健康、国際、環境、健康など多彩な約50の講座でシニアの知的好奇心を満たしており、CCRCの多くの居住者が受講している。ではアクティブシニアはどんなライフスタイルを送っているのだろうか。その声を紹介したい。

(まつだ・ともお) 慶応大法学部政治学科卒。専門は高齢化社会の新産業政策・地域活性化。10年に三菱総研の新たな政策提言プロジェクト「プラチナ社会研究会」を立ち上げる。文部科学省生涯学習ネットワークフォーラム企画委員、石川県ニッチトップ企業評価委員。

継続的なケアを提供する高齢者コミュニティ

米国では、ゴルフ場に隣接して住居や娯楽が整備されたリタイアメント・コミュニティという街が、フロリダ、アリゾナなどの温暖な地域で多数開発・運営されている。ゴルフ三昧のシニアの理想郷は大きく普及しているが、課題も幾つか表面化してきた。

第一に「介護」の問題だ。

歳を重ねて健康上何かあった時に、せっかく購入した場所から別の介護施設に転居しなければならぬのは経済的に大きな負担である。

米国におけるリタイアメント・コミュニティとCCRC

高齢社会先進国日本。今後約800万人の団塊の世代が定年を迎えるが、充実した老後は約10万時間と言われる定年後の自由時間の過ごし方にかかっている。

る

第二に知的刺激の不在だ。温暖な気候、ゴルフ三昧、ストレスフリーといった快適過ぎる環境は、頭を使わなくなることから、急速に衰えてアルツハイマー病など患うおそれがある。シニアには体の元気だけでなく頭の元気も必要なのである。

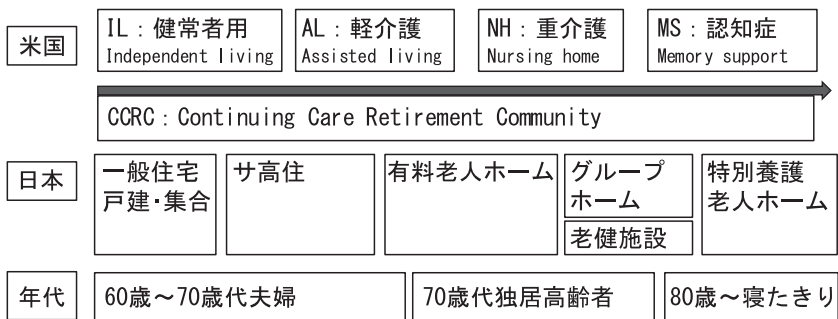
第一の介護転居問題を解決したのが、CCRC(Continuing Care Retirement Community)というシステムだ。日本の高齢者住宅が、一般住宅、サービス付高齢者住宅、有料老人ホーム、特別養護老人ホームと分かれるように、米国でも高齢者住宅は、①健常者用、②軽介護、③重介護、④認知症と分かれている。CCRCはこの①～④の居室をひとつの敷地にまとめたもので、居住者は健康時

米国ではCCRCが都市、近郊、地方と多様な立地で約2000カ所存在し、約60万人が住む巨大市場を形成している。

第二の知的刺激不在を解決したのが、大学連携型のCCRCだ。大学の敷地内や近隣のCCRCから、シニアは大学の講座やイベントに参加して、再びキャンパスライフを満喫する。こうした大学連携型のCCRCは全米で約70存在する。例えば、マサチューセッツ州のラッセル・ビレッジでは、入居条件として年間450時間以上の講座を受講となっている。他の大学では、シニアが自分の経験を講義したり、学生のキャリア・アドバイザーにもなる。シニアは学んだら教えたりするなかで、「何かに打ち込んでいる」、「誰かの役に立っている」という実感を得て、充実した老後を送ることがで

の近隣のケンダル・アット・ハノーバーは、約400人が暮らすCCRCで平均年齢は84歳、米国の平均寿命79歳を上回り、しかも8割が元氣だ。入居率は98%と経営面も順調で、地元にも多くの雇用を生み出し地域社会に貢献している。

高齢者住宅におけるCCRCの概念



超高齢社会迎える日本へも示唆

○88歳・男性

気に入っているのは、コミュニティの運営が居住者に任ざれていることだよ。今は、コミュニティ雑誌の編集長として毎日忙しくしているよ。

印象的だったのは、彼らが昔の話をほとんど話さないことである。成功したシニアほど過去の自慢話になりがちだが、今夢中になっていることを楽しそうに話す。アクティブシニアは、「過去を語るのではなく、今を語る」のだ。

四方一両得のライフスタイル・ビジネス

CCRCは①シニアの健康、生きがい②地域社会の雇用③企業の新規事業④大学の活性化という四方一両得をもたらす。しかし、CCRCは単にシニア住宅を建設する事業ではない。住居、健康、介護、学習、社会参加、保険、資産運用など様々な要素を組み合わせたライフスタイル・ビジネスであり、建設した後の運営が特に重要になってくる。ゆえに綿密な事業計画や高度な運営ノウハウが求められる事業である。

CCRCは、超高齢社会を迎える日本で、地域活性化やビジネスに多くの示唆を与えている。

(まつだ・ともお) 慶応大法学部政治学科卒。専門は高齢化社会の新産業政策・地域活性化。10年に三菱総研の新たな政策提言プロジェクト「プラチナ社会研究会」を立ち上げる。文部科学省生涯学習ネットワークフォーラム企画委員、石川県ニッチトップ企業評価委員。